**地域情報ニュース「品川しゅく」第148号　音声読み上げ用ファイル**

令和4年12月20日　品川第一地域センター　発行

電話番号03-3450-2000　ファックス番号03-3450-2026

今号は、特集を6つ掲載しています。

**特集1タイトル「～小関地区の今昔～」**

小関地区の地名の由来について、現在の北品川５丁目から居木橋までの区域には昔、太古の東海道とされる古道の関所があったことから、この地域を「小関」と呼ぶようになったと言われています。

小関地区は当初、農作物を育てる土地として利用されていたため、人々が生活を営む場所ではありませんでした。その後、江戸時代後期から農家が住み始めるようになり、「字小関」と呼ばれる居住地域になりました。

挿入画像1：昭和27年当時の小関地区の様子

昭和30年代頃になると、工場の郊外転出とマンションの建設が相次ぎ、居住人口が急増しました。

現在では、多くのマンションや商業施設が立ち並ぶ地域になり、地域住民の生活拠点となっています。

挿入画像2：令和4年現在の小関地区の様子

なお、この記事は品川区発行の「品川の歴史シリーズ・地名編」を引用し作成しました。

**特集２タイトル「品川第一地区特集　公園ピックアップ！　小関公園」**

居木橋の北西に位置し、隣接する民間住宅内の公園や目黒川の緑道と繋がっている公園です。

挿入画像1：小関公園の写真

園内には、鉄棒のほか、品川第一地区管内では珍しいフェンス付きのキャッチボール場が設置されており、地域の子どもたちが逆上がりやボール遊びを楽しんでいます。

挿入画像2：キャッチボール場の写真

見出し：あらい会長にお話を伺いました！

以下、小関親睦会会長 あらいたつおさんのお話です。

この公園は、ファミリーレクリエーションなどの地域行事にも利用されており、地域住民の交流の場になっています。

挿入画像：あらい会長の写真

**特集3タイトル「イベントルポ　目黒川みんなのイルミネーション2022」**

　令和4年11月11日（金）から令和5年1月8日（日）まで開催されている「目黒川みんなのイルミネーション2022」の様子をお届けします。

見出し1：廃食油を再利用してライトアップ！

このイルミネーションでは、目黒川両岸合わせて2．2キロメートルの点灯距離に約35万球の桜色エルイーディ電球が使用されています。

エルイーディ電球に使用されている電力は、近隣14カ所から回収した使用済みの食用油を精製して作られた燃料を用いて生み出されたもので、「エネルギーの地産地消」によるライトアップが実現しました。

挿入画像：イルミネーションの様子

見出し2：橋梁も桜色＆白色にライトアップ！

イルミネーションの開催期間中、開催範囲内の5つの橋梁（森永橋、小関橋、鈴懸歩道橋、山本橋、ふれあいケー字橋）が期間限定で桜色と白色にライトアップされています。

挿入画像1：小関橋の様子

挿入画像2：森永橋の様子

イルミネーションと橋梁の連携ライトアップは、令和5年1月8日（日）までの期間中、毎日17時から22時まで開催されています。

ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか？

**特集4タイトル「～天王洲地区の今昔～」**

天王洲地区の地名の由来について、品川浦周辺の海中から引き揚げられたお面が、南品川の天王祭の神輿の屋根に付ける神聖なお面と考えられたため、これが天王洲の地名の由来とされています。

天王洲地区は当初、江戸幕府による第四台場の築造予定地に選ばれた洲（海中の土砂が堆積してできた土地）でした。

その後、昭和時代初期に埋め立てが始まり、完成後は工場や倉庫など、戦後の復興資材の集積地として利用されました。

挿入画像1：昭和33年当時の天王洲地区の様子

平成時代初期には、モノレールの開通や大型商業施設の開業により、利便性の高い近代的な地域として発展しました。

現在では、オフィスビルやタワーマンションが立ち並ぶほか、美しい水辺を生かした観光スポットやアートギャラリーがあり、賑わいのある地域となっています。

挿入画像2：令和4年現在の天王洲地区の様子

なお、この記事は品川区発行の「品川の歴史シリーズ・地名編」「天王洲地区景観まちづくりルールアイデアブック」を引用し作成しました。

**特集5タイトル「～新会長のご紹介～」**

以下、天王洲会会長 もりたまさしさんのご挨拶です。

天王洲会は、天王洲アイルに拠点のある企業21社を中心として組織されている町会です。

天王洲エリアは開発から約30年が過ぎ、新たに街づくりの活性化に取り組んでいます。10月には、旧東品川清掃作業所が「アイルしながわ」というスポーツイベント施設に生まれ変わりました。

また、天王洲エリアはアートの街・水辺の街をテーマにアート作品を展示し、フェス等のイベントを定期的に開催することで多数の方が訪れていただくようになりました。

地域の一員として、関係各所にご協力を頂きながら、防災・防犯・活性化意識を高めて参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

挿入画像：もりた会長の写真

**特集6タイトル「イベントルポ　しながわ水辺の観光フェスタ2022」**

　令和4年10月8日（土）から10月10日（月・祝）までの3日間開催された「しながわ水辺の観光フェスタ2022」の様子をお届けします。

見出し1：1日目 10月8日（土）の様子

小見出し1：秋の運河花火まつり（花火）

1日目の夜には、天王洲運河から約8千発の花火が打ち上げられ、会場中に拍手が巻き起こりました。

挿入画像：夜空を彩る花火の写真

小見出し2：灯篭ロード

目黒川の沿道には、城南第二小学校と台場小学校の児童が作成した灯篭が並べられ、幻想的の空間が広がっていました。

挿入画像：児童が作成した灯篭の写真

見出し2：2日目 10月9日（日）の様子

小見出し1：秋の運河花火まつり（屋台など）

東品川海上公園内には、屋台や体験コーナーなどが多く並び、会場内は活気に満ち溢れていました。

挿入画像：屋台や体験コーナーの様子

小見出し2：東海道しながわ橋テラス

旧東海道品川宿の品川橋では、カフェやマルシェが開催され、散歩中の親子連れや夫婦など多くの人で賑わっていました。

挿入画像：カフェやマルシェの様子

見出し3：3日目 10月10日（月・祝）の様子

　小見出し1：「アイルしながわ」オープン

　天王洲アイルには、文化やスポーツを起点としたまちの賑わいを創出する場所として「アイルしながわ」が誕生しました。

挿入画像：「アイルしながわ」の写真

　小見出し2：「アイルしながわ」オープニングセレモニー

　オープニングセレモニーでは、「アイルしながわ」のグランドオープンを記念し、テープカットが行われました。

　挿入画像：オープニングセレモニーの様子

地域情報ニュース「品川しゅく」第148号の内容は以上です。